

手法選定理由書

～なぜ「自転車+クイズ」形式を採用したのか～（予算：65万円）

1. はじめに

本事業では、「地域的魅力・課題を体感的に学ぶことで、子どもたちに当事者意識を育み、主体性・社会性・健康意識を育てるこ」を目的としています。この目的を最大限達成するための手法として、「**自転車によるサーキット周回**」×「**新潟に関するクイズと謎解き**」という形式を採用しました。

その選定に至った理由を、以下の通り、他の手法との比較を交えながら明らかにします。

2. 比較検討した他の手法と課題点（コスト込み）

手法案	内容概要	概算費用（30名×2部構成想定）	主な課題点
(A) 室内型講義+グループワーク	地域の専門家を呼び、講義とグループワークを実施	約55～80万円（講師謝金、会場費、印刷費、進行人件費）	受動的で体験性に乏しい。記憶定着・楽しさ・集客効果に課題。
(B) バスによる地域周遊型フィールドワーク	各地を見学し、地域に関する調査やクイズ	約90～120万円（バス2台チャーター、保険、現地調整費等）	高コスト、時間制約、天候や道路事情に左右されやすい。安全管理も複雑。
(C) 体育館型レク+資料展示	体育館内で謎解き風レクと地域紹介ブース	約60～75万円（会場費、展示制作費、スタッフ、保険）	動的活動や地域リアル体験に弱く、印象が薄くなりがち。資料中心で受動的。

3. 本手法（自転車+クイズ）の優位性【予算65万円内での実現性】

評価観点	本手法の利点
① 学習効果（地域理解）	クイズ・謎解きを通じて、自ら調べ・考え・答える体験を得る構成。全LOMから出題されることで、広域的な地域知識を習得可能。
② 主体性・当事者意識	競技型要素（タイム制・謎解き）により、「自分ごと」として地域課題に取り組むモチベーションが自然に生まれる。
③ 身体活動・健康促進	自転車という手段により、学びと運動の融合を実現。生活習慣改善の一環としても有効。
④ 集客効果・ワクワク感	「間瀬サーキット」「謎解き」「自転車」といった非日常性の高い要素が揃い、参加者に強い印象とリピート意欲を与える。
⑤ コスト効率・再現性	<ul style="list-style-type: none">自転車はサーキットと連携し安全性を確保した上で一括レンタル謎は市販本を使用し制作費を圧縮メイン会場内で完結するため交通費・警備費がほぼ不要65万円以内で完結可能（以下に内訳例）